

令和3年度

第2回

関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会

日 時：令和3年9月14日（火）

13：30～15：00

場 所：関東森林管理局ほか
（各委員の事務室等）

次 第

1 開 会

2 議 事

（1）木材の需給動向について

- ①木材の需給及び価格等の動向
- ②関東森林管理局における国有林材の供給状況
- ③各地域の木材需給動向について

（2）その他

3 閉 会

令和3年度 第2回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 出席者名簿

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名
株式会社フジイチ 代表取締役社長	石野 秀一
福島県森林組合連合会 常務理事	遠藤 誠寿
栃木県県東環境森林事務所 森林部長	川上 晴代
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林業経営・政策研究領域 領域長	久保山 裕史
協和木材株式会社 代表取締役社長	佐川 廣興
東京合板工業組合 業務統括室長	佐々木 祐子
茨城県森林組合連合会 代表理事専務	佐藤 信聡
群馬県森林組合連合会 木材部長	鈴木 克志
有限会社平子商店 専務	平子 美穂子
栃木県森林組合連合会 木材流通課 課長	福田 成芳

関東森林管理局

官 職	氏 名
森林整備部長	山口 輝文
資源活用課長	森田 隆浩
企画官(木材需給対策)	畠山 幸樹
素材供給係長	齋藤 悠
供給計画係	濱砂 俊介

(別紙)

令和3年度 第2回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1 開催日時・場所

令和3年9月14日(火) 13:30~15:00

関東森林管理局 3階小会議室及び各委員事務室等(書面及びWEB会議)

2 議題

(1) 各地域の木材需給動向

(2) その他

3 検討結果

各地域の木材需給の動向や各委員からの意見等を総合的に勘案した結果、今後の国有林材の供給は前倒し販売が可能な物件の公売時期の前倒しを含めた立木販売の計画的実施や、素材生産請負事業の計画的かつ着実な実施による原木の確実な供給により、木材の安定供給を図る必要がある。

なお、関東森林管理局においては、今後も各地の木材需給動向や市況を注視し、地域の状況を踏まえた的確な供給に取り組むため、引き続き関係業界等からの情報収集を行い、大きな動きがあれば臨時の供給調整検討委員会の開催を含め対応されたい。

4 概要(状況報告等)

(1) 各地域の木材需給動向について

○ 原木、製材品供荷動きは好調だが、人員と設備の影響で生産量が増えないため、販売量、在庫量共に横ばいとなっている。価格は柱適材を中心に高騰しており、製材品は高値横ばいとなっているが、原木はまだ上昇中である。

○ 入荷は、虫害やカビ等の不安により減少傾向にあるが全体的に荷動きは良好である。虫害やカビ等により杉柱適材及び中目材はやや値を下げている。桧土台用については、不足感があり高値を継続している。合板の動きは良く、在庫は通常の半分くらい。合板、ラミナ、梱包材などに不足感がある。

○ 原木の入荷は順調である。製材品は、6月までに比べると不足感は緩和したが、全体的な品薄状態に変わりはない様子である。杉KD柱角は4月以降高騰し、1年前と比較して2倍以上である(その他の製材品も、品目によっては外材の価格上昇につられ上昇しているものがある)。

○ 原木不足の状況が続いており、天候が定まらず雨の中の伐出作業が難航している。原木価格は杉3m柱取りで18,000円~19,000円、製材品価格は杉KD材3m柱で100,000円など。

○ 原木は全樹種において月を追うごとに価格上昇中であり、盆休暇・大雨の影響により生産低調で入荷状況は会社毎によって異なる。製材品の荷動きは好調であるが、在庫は低水準のままで一層苦しい状況になりつつある。外材は船運賃の高騰などにより強含みの推移となっている。

○ 杉原木価格は5月にピークとなってからやや落ち着きをみせていたが、8月から強含みとなっている。桧は6月のピーク後も高値を維持している。8月は平年比較で杉は約4,000円高、桧は約10,000円高の状況となっている。

- 原木の荷動きは活発で、需要量に対して供給量が追いつかない状態が続いている、特に桧 4 m 土台用原木は入荷量が少なく逼迫している。また、合板材用原木も荷動きがよく、唐松材が品薄状態になっている。
- お盆から続く長雨で現場作業が進まず、虫害も目立っている。原木は7月に少し値を下げたが、8月に入り品不足もあったことで値が戻り、横ばい推移となっている。
- 入荷は天候に関係なく順調であるが、最近は多少落ち着いてきた。杉 3 m 柱適材に関しては、若干の強気配感がある。桧 3 m 柱適材は保合だが、4 m 土台用・中目材に関しては、不安定な状況である。今後虫害材がなくなれば、価格は上がってくると思われる。
- 製材用原木の月別入荷量は増加し、最近のピークに近い水準であり、増産余地は少なくなっていると推察される。製材品の出荷量も同様の動きになっている。また米国の先物価格は以前の水準に戻った様子である。短中期的には価格の高い状況が続く想定であるが、コロナの感染拡大が沈静化すれば概ね以前の状態に戻ると考えており、高騰が5年・10年続くかと言われれば懐疑的である。

(2) その他

- 欧州材価格が下げに向わなければ国産材も現状維持であると考えている。住宅メーカーの一部で間柱や野縁に LVL を使い始めており、輸入 LVL にはハコヤナギやアカシアが使われているが、ノン JAS 品のため強度や耐久性に不安がある。また、接着剤もどんな物が使われているかわからない。
- 製材品の増産については、乾燥工程の兼ね合いからほとんど余力は無い。また、製材品価格高騰の影響が原木価格へあまり反映されていないが、これは、需要のある製材品の品目が東日本と西日本で異なるという背景もあるのではないかと考えている。
- 皆伐による出材増加に伴い再生林作業が生じる。民有林所有者は再生林費のコストが高く経費がかかり増しになるためにあまり積極的に皆伐施業しない。そのため、森林整備事業による間伐材を主として搬出している状況である。
- これまで実施していた立木販売の前倒しについては、非常に効果があったものとする。今後は、可能な物件があれば引き続き、早めの公売を実施してもらえればとする。
- 市場の安定化を図るためには、国有林材の安定的な供給が不可欠であると考えている。